令和４年度 徳島大学大学院 創成科学研究科修士課程

臨床心理学専攻　Ⅰ期

入学試験問題

受験科目名：臨床心理学

【注意事項】

1　係員の指示があるまで問題冊子を開いてはならない。

2　試験問題は，表紙（この紙）１枚，問題・解答用紙７枚の，合計８枚である。

3　解答開始後，各問題・解答用紙の「受験番号」欄に受験番号をはっきりと記入すること。

4　問題は合計５問である。５問ともすべて解答すること。

5　解答は指定された解答欄に記入すること。

6　配布した用紙はすべて回収する。

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その１

第１問　次の英文を読み，下の問１～２に答えよ。

The COVID-19 pandemic has affected every aspect of life in Japan. The unemployment rate has increased for nine consecutive months since the epidemic was recognised. Social interactions and mobility also have been substantially restricted by individual choice or government intervention. Fear and anxiety regarding infection are persistent. Given these circumstances, although the reasons behind suicide are extremely complex, there are a number of factors that could explain the rapid increase in the suicide rate during the second COVID-19 outbreak.

We find that the effects of the pandemic are not evenly distributed across populations and that there are differences with the historical suicide. First, the previous suicide rate among males was 2.3 times higher than among females (from November 2016 to January 2020), and the increase in suicide among males after previous financial crises was larger than that among females (Chang, Stuckler, Yip, & Gunnell, 2013). By contrast, during the second wave of the COVID-19 pandemic the increase in the suicide rate among females (IRR[1)] = 1.37, 95% CI 1.26 to 1.49) was about five times greater than that among males (IRR = 1.07, 95% CI 1.01 to 1.13), with a larger increase among housewives (IRR = 2.32, 95% CI 1.65 to 3.26). The suicide level for males remained higher than for females, but disparities decreased. These results are consistent with recent studies that find that this crisis has had a larger effect on female-dominant industries (Adams-Prassl, Boneva, Golin, & Rauh, 2020), and that stay-at-home orders magnify the working mother's burden (Alon, Doepke, Olmstead-Rumsey, & Tertilt, 2020). Similar patterns were observed in the Japanese labour market: the decrease in female employment was more pronounced than the decrease in male employment, and there was a larger effect on non-regular workers (56% of females and 22% of males are non-regular workers). In addition, domestic violence, which harms mostly women (more than 95% of all cases), increased. All of these factors may have contributed to harming women's psychological health.

The suicide rate among children and adolescents also increased in the second wave of the pandemic (IRR = 1.49, 95% CI 1.12 to 1.98). This may be because the pandemic also excessively affects younger workers, who are more likely to be low-skilled and employed on less secure work contracts. Indeed, the decline in the employment rate during the disease outbreak was greater among this age group. Furthermore, the timing of the second outbreak corresponded to the period when schools (elementary school to high school) were reopened after the nationwide school closure. Previous studies have reported that schooling could be a risk factor for violence (Jacob & Lefgren, 2003) and suicide (Matsubayashi, Ueda, & Yoshikawa, 2016) among students. After a period of a few months without school during the pandemic, the stress from returning to school could have been exacerbated. These factors may have amplified children's and adolescents' psychological depression.

[1)] IRR: incidence rate ratio

出典：Tanaka, T., & Okamoto, S. (2021). Increase in suicide following an initial decline during the COVID-19 pandemic in Japan. *Nature Human Behaviour*, *5*, 229-238. https://doi.org/10.1038/s41562-020-01042-z2.より一部改訂して抜粋

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その２

問１　第１段落を日本語に訳せ。

問２　英文に示された結果から，パンデミック下の自殺対策における留意点や今後の支援方策について，どのようなことが示唆されるかについて述べよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その３

第２問　心理学に関連する，次の語 1～20 とそれぞれ関連が最も深い語を，下の語群ア～フのうちから一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 強迫性パーソナリティ障害　2. 古典的行動主義　3. 内田勇三郎　4. 標準偏差
5. 信頼性　6. 認知症検査の一種　7. アンダーマイニング効果　8. 興奮性神経伝達物質
9. 心拍知覚課題　10. 確信度判断　11. 発達検査の一種　12. レミニセンスバンプ
13. マッハバンド　14. マルトリートメント　15. タイプＣパーソナリティ　16. 傍観者効果
17. 集団極性化　18. ランダム化比較試験　19. オペラント強化　20. プライミング効果

語群

ア．錐体外路症状　イ．K. Koffka　ウ．グルタミン酸　エ．分散の正の平方根
オ．シュレディンガーの猫　カ．連続加算法　キ．J. B. Watson　ク．デーモン・コア
ケ．コーシャス・シフト　コ．責任の分散　サ．スキナー箱　シ．スリップ
ス．HDS-R　セ．ネグレクト　ソ．E. L. Deci　タ．内受容感覚
チ．閾下呈示　ツ．最頻値　テ．記憶モニタリング　ト．自伝的記憶の想起
ナ．錯視　ニ．WPPSI-Ⅲ　ヌ．完璧主義　ネ．超回復
ノ．無作為割付　ハ．社会的同調性　ヒ．α係数　フ．γ-アミノ酪酸

解答欄

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
記号																				

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その４

第３問　次の文章を読み，下の**問１～４**に答えよ。

Table1.セルフコントロール尺度短縮版の確証的因子分析の結果

	大学生 (n=259)	一般人 (n=290)
1 悪いクセをやめられない(r)	.465	.709
2 だらけてしまう(r)	.594	.730
3 場にそぐわないことを言ってしまう(r)	.276	.529
4 自分にとってよくないことでも，楽しければやってしまう(r)	.532	.667
5 自分にとってよくない誘いは，断る	-.184	-.263
6 もっと自制心があればよいのにと思う(r)	.425	.734
7 誘惑に負けない	-.576	-.560
8 自分に厳しい人だと言われる	-.376	-.392
9 集中力がない(r)	.298	.605
10 さきのことを考えて，計画的に行動する	-.328	-.382
11 よくないことと知りつつ，やめられない時がある(r)	.699	.688
12 他にどういう方法があるか，よく考えずに行動してしまう(r)	.521	.533
13 趣味や娯楽のせいで，やるべきことがそっちのけになることがある(r)	.581	.684

注）(r)は反転項目。数値は因子負荷量(標準化係数)。

Table1 は，セルフコントロール尺度（思考・感情をコントロールすること，自律的に振る舞うこと等を表した各文章について，対象者自身がどのくらい当てはまるかを自己評定する尺度）の因子分析結果である。

この結果を出すまでに，まず 13 項目の回答分布を確認したところ，明らかな床効果（floor effect, basement effect）や天井効果（ceiling effect）は見られなかった。次に探索的因子分析を実施し，固有値の減衰パターンに基づき，因子数を 1 と判断した。その後，大学生と一般人の結果を合わせ，確証（確認・検証）的因子分析による検証を行った。その結果から 1 因子構造が確認できた。その後，この尺度の再検査信頼性を確認したところ，十分な安定性を持っていることが確認された。また，この尺度の収束的・弁別的妥当性を検討するために他の指標との関連性を調べたところ，予測通りの相関が示された。

参考：尾崎由佳他 (2016). セルフコントロール尺度短縮版の邦訳および信頼性・妥当性の検討 心理学研究, *87*, 144－154.

問１　心理統計における床効果と天井効果について，それぞれ説明せよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その５

問２　探索的因子分析と確証（確認・検証）的因子分析について，両者の違いがわかるようにそれぞれ説明せよ。

問３　再検査信頼性について説明せよ。

問４　収束的妥当性および弁別的妥当性について説明せよ。

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その６

第４問　心理学に関連する，次の文章を読み，それぞれの内容と関連が最も深い語を，下の語群 a～z の中から一つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入せよ。

1. 浄土真宗の身調べという修養法に基づいて開発された心理療法では、客観的認知を促すことで他者視点からの認知及び自己に対する新たな洞察が得られると考えられている。
2. 夫婦関係のストレスに対しては，夫婦の水準で行っている対処行動に着目する治療法が有名であり，スイスの研究者らによって広められている。
3. 学習性無力感の研究で有名な Seligman. M.E.の講演がそのきっかけとなり，人間の肯定的側面を研究する研究領域が広がった。
4. この知能検査は、フランスで小学校入学時の知的障害児を査定するために開発されたものであり，知能指数は精神年齢から生活年齢を除した値に 100 を乗じて求められる。
5. 青年期の非行に対しては，その非行行動がどういった社会的ネットワークの中で維持されているのかを特定し，そのネットワークを改善する治療法が推奨されている。
6. 自閉性スペクトラム症における社会性の障害は，他者の情動や動作の意図を読み解く際に必要ないくつかの脳の領域が正常に発達していない結果と考えられている。
7. ストレス下にある人間は、副腎皮質からあるホルモンを多く分泌する。このホルモンは短期的にはストレス対処に役立つが，長期間このホルモンにさらされると，海馬に損傷が生じることが指摘されている。
8. 時間的切迫感、性急さ、達成努力、野心、競争、敵意といった性格特徴を持つ人たちはそうでない人たちに比べて，冠状動脈性心臓疾患の発症リスクが高いことが知られている。
9. この能力は、逆境的状況に直面しても，その状況を克服し、かつ、適応を図る快復力であり、この能力が高いほど精神疾患になり難いことが知られている。
10. Wolpe. J.の開発した治療法では，クライエントはそれぞれの場面での不安に関する主観的強度を得点化する。この得点に基づき、クライエントは不安の低い場面に随時直面化し、そういった場面で、不安と拮抗する反応をクライエントが獲得できるように治療者は支援していく。

語群

a. 認知再構成法　b. EMDR　c. ゲシュタルト心理学　d. ポジティブ心理学　e. マルチシステミックセラピー　f. 内観療法
g. マインドフルネス瞑想　h. expressed emotion　i. emotion-focused therapy　j. couple-coping enhancement therapy
k. integrative behavioral couple therapy　l. 系統的脱感作法　m. トークンエコノミー法　n. ビネー式知能検査
o. ウェクスラー式知能検査　p. タイプＡパーソナリティ　q. タイプＢパーソナリティ　r. 外向性　s. GABA
t. グルココルチコイド　u. ノルアドレナリン　v. レジリエンス　w. 成長動機　x. ミラーニューロン　y. 角回　z. 前頭前野

解答欄

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
記号										

小　計	

受験番号	

徳島大学大学院創成科学研究科修士課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その７

第５問　次の文章を読み，下の**問１～２**に答えよ。

Ａさんは，心理職を目指して学外実習にも取り組んでいる，大学院２年生である。ある日，学外実習先の被害者支援センターで同年代の犯罪被害者Ｂさんと出会った。Ａさんは，失礼のないように自身の連絡先を記載した名刺とともに丁寧に挨拶をした。被害から１ヶ月もたっていなかったＢさんは，Ａさんに被害による影響や自身の気持ちを多く語り，Ａさんも同年代のＢさんの話をまるで自分ごとのように感じ，実習時間中，懸命に話を聴き続けた。心からの感謝の気持ちを述べたＢさんを，Ａさんは「私で良ければ，いつでもお話を伺いますね」と見送った。

問１　Ａさんがとった対応についてのあなたの考えを，理由とともに述べよ。

問２　下線部について，被害の種類を問わず心的外傷体験をした場合に認められる反応と，一般的に行われる基本的な対応について述べよ。

小　計	

合　計	